

あいさつ

新座市立新堀小学校長 若林 利明

本校は、令和元・2・3年度の三年間、『豊かな心で 主体的に道徳的な価値を身につける児童の育成』、副題として、～考える道徳、議論する道徳の授業をとおして～を研究主題として新座市教育委員会の研究委嘱を受けることとなりました。ちょうど新学習指導要領のスタートの時期にもあたり、「特別の教科 道徳」は全教員が係わることができ、何よりも自分達自身が必要と感じていて、ぜひ、「道徳」の授業力を向上させたいという本校教員の多くの意見を取り入れる形で、本研究主題に取り組むことにいたしました。若手も多く、経験も浅い本校教員にとって、「道徳」の授業の基本を身に付けるためにも、授業を中心に研究を進めることとし、今年度は各担任が、研究授業及び公開授業を実施しました。今後も、研究主題に迫るため、子ども達が主体的に道徳的価値を実生活の中でも体現できる効果的な手順や手立てについて試行錯誤を重ねていければと考えています。児童が主体的に対話する中で、周りの人間の考えを取り入れながら、自らの考えを昇華させ、授業をとおして感じたことを実生活に生かそうとする気持ちを育むことができればと思っております。

研究はまだ始まったばかりで、正直言えば、方向性も揺れ動いているところもありますが、成果と課題をしっかりと検証しながら、更なる工夫改善を加えて学校全体で研究を進めていきたいと思っております。

最後になりますが、本研究を進めるにあたり、指導者をお願いすることになった文教大学 五十嵐 由和 先生、埼道研会長をつとめていらっしゃいます越谷市立大沢小学校長 藤澤 由紀夫 先生、新座市立第四小学校 教頭でいらっしゃいます浅田 敦子先生の3人の先生方におかれましては、今年度の丁寧で心温まる御指導に深く感謝申し上げます。また、このような機会を与您いただきました 金子 廣志 教育長を始めとする新座市教育委員会の皆様に心からお礼を申し上げます、あいさつとさせていただきます。

来年度以降も引き続きの御指導、御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

令和元年度・2年度・3年度 研究の全体構想図

学校教育目標

学ぶ子ども 仲よくする子ども 健康な子ども はたらく子ども

児童の実態

- ・元気で明るく素直な児童が多い。
- ・場に応じた言葉づかいや振る舞いが身につけていない傾向にある。
- ・臨機応変な行動ができず、主体性に欠ける。

教師の願い

- ・児童自身の自己の生き方について考えを深めさせたい。
- ・指導を工夫することで、道徳的価値をより深く追求させたい。

研究主題

豊かな心で 主体的に道徳的な価値を身につける児童の育成
～考える道徳、議論する道徳の授業をとおして～

目指す児童

自己の生き方について考えを深める子

仮説1

問題意識を持ち、自己を見つめさせる指導を工夫することで、道徳的価値を自分のこととしてとらえ、考えることができるであろう。

仮説2

児童が話し合いを通して他の人の考えに触れ、ねらいとする道徳的価値についてさらに考えることで、自己をより深く見つめ、よりよく生きようとする児童を育むことができるであろう。

各手立て 相互の関連

授業前

手立て1

アンケート等による児童の価値観を把握

手立て2

教材吟味表、道徳的価値分析表の作成・活用・蓄積

授業時

手立て3 授業展開の充実

- ①登場人物の心情を整理
- ②自分事として考える中心発問の展開

手立て4 考え・議論する道徳

- ①思考・ツールの活用
- ②授業における話し合いの充実（ペア・グループ・全体）

授業後

手立て5

- ①自分自身を振り返る（道徳ノート）
- ②教材を通して、価値に関する考えを広げる

手立て6

- ①学年ごとに授業展開、板書を記録しておく。

授業展開7つのステップ（新堀スタンダード）

導入

- ①アンケートによる児童の価値観の整理
- ②状況整理（登場人物、あらすじの確認）
- ③範読

中心人物の気持ちの変化を問

展開

- ④中心人物の心情理解
「〇〇は今、どんな気持ちだろう。」
「〇〇はどんなことを考えているか。」
「〇〇は、どんな思いで～しているのか。」

主人公に自己置換させて問う。
迷いや葛藤等のなかで選択的に問う。

- ⑤中心発問（自分事として考える）
「～のとき、自分だったらどうするか。」
「自分が〇〇ならばどう考えるか。」
「自分がそこにいたらどうするだろうか。」
「自分なら、そこで何というだろうか。」
「自分は〇〇のようにできるか。」

主人公やお話に対する考えを問う。子供自身の考えや生き方を問う。

- ⑥中心場面（主人公の行動を問う）
「なぜ〇〇は～できたのか。」
「なぜ〇〇は～と考えたのか。」

終末

- ⑦自分自身を振り返る。
「（内容項目）についてどう考えるのか。」
「（学習を通して）学んだことは何か。」

【話合いの手立て】（国語学習指導要領 話すこと オとの関わり）

【低学年】

- ①話の内容を捉えて感想をもつ。（質問、復唱、共感、感想を言う）
「（わたしの意見は）～です。」 「質問はありますか。」

【中学年】

- ①司会の役割（進行表） 「～について話し合います。Aの人？Bの人？」
- ②共通点や相違点に着目する。「～が似ています。」 「～が違います。」

【高学年】

- ①互いの立場を明確にする。（異なる意見の理由を尋ね合う） 「～はどうですか。」
- ②意図を明確にする。（どのように話し合うのか。話合いの方法）
- ③計画的に話し合う。（司会） 「中学年同じ」
- ④考えを広げたりまとめたりする。（互いの意見の共通点や相違点、利点、問題点）
「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」

令和元年 9月24日(火) 第6校時
 在籍児童数 男子16名 女子15名 計31名
 場所 5年1組 教室
 指導者 教諭 工藤 俊輔

- 1 主題名 ほんとうの自由 内容項目 [A-1 善悪の判断、自律、自由と責任]
- 2 ねらい 登場人物の考えや行動を比べながら話し合う活動を通して、自由の意味を理解し、自分の力を高めるために行動しようとする態度を育てる。
 教材名 「自由学習ノート」
 (出典：彩の国の道徳 夢にむかって 埼玉県教育委員会)

3 授業の流れ(主発問及び児童の反応を明記する)

(1) 導入

① 価値への方向付け

発問1：自由とはどのようなことですか。

- ・好きなことをしていい。
- ・迷惑がかからないことをする。

発問2：今の段階で自由とはよいものですか。

(2) 展開

① 課題提示

課題：自由とは、どのようなことか。

② 状況について確認

③ 範読

発問1：陽平と健二は、自由学習ノートについてどのように取り組んでいますか。

(陽平)・適当で良い。 ・面倒くさい。

(健二)・好きなことをしている。 ・いろいろ考えている

発問2：どちらの取組がいいですか。

発問3：お母さんや先生から見たらどちらがよいですか。

主発問：陽平は本当にこのままでいいですか。

発問4：今後自由学習ノートを自分だったらどのように取り組んでいきますか。

- ・楽をするのではなく、胸をはって取り組めるような課題にする。
- ・自分の力になることをする。

(3) 終末

- ① 今までの自分自身を振り返り、自由についての詩を聞く

4 板書



5 指導者より

指導者 文教大学講師 五十嵐由和様

(1) 授業のよい点

先生と子どもの呼吸がぴったりで、意欲的だった。話し合い、発表が普段からできているのが分かった。

発言を拾って、他の子どもに広げていた。

「自由とは？」の答えの「不幸がない」を具体的にしていた。「誰にも注意されない。」には「それが自由なの？それはどういうこと。」「好き勝手できること。」には「それが自由なんだ。」という教師の問い返しはとても大事でよかった。

(2) 授業の課題

『自由とは、好き勝手にできること』と子どもは自然に思っている。そこをどう変えていくか。自由の意味を理解し、行動する態度を育てることだ。陽平も健二も自由だが、自分を高めるのはどちらなのか。

子どもに近い教材と、遠い教材がある。今日の教材は、子どもに近い。子どもは自分の自由学習ノートとだぶらせながら考えたであろう。学級指導とだぶらせがちである。だが健二と陽平の対比だから子どもは考えられた。

めんどくさいという、陽平の気持ちも人間としてはある。共感してもよい。

「学習ノートに、自分はこれからどのように取り組みますか。」に対して、学んだ価値をもとに書かせることが大事だ。「陽平はあることに気づいたよね。」と先生が言ったのはよかった。それをもう少し深掘りしてもよかった。

例えば、『陽平が自分のノートを見つめた。雑な字で書いてあった。新たなページに向き合った。』『その時にどう考えていたのかな。』と問う。

最終的に、「自由とは」と一般化すれば良かった。今日の授業では、自由の意味について考えるところまではいかなかった。そこが弱かった。自由と自分勝手との違い、自由だからこそできること、そのよさを考えさせる。

(3) 考え、議論する道徳

主体的な学習とは、問題意識を持ち、分かりたい、学びたいと思いだである。

道徳では、教材を通して、登場人物から価値について学ぶことができる授業だ。

教材をどう活かすかがポイントだ。道徳の特質は、教材を活かして、自分を見つめて、振り返ることだ。心情理解のみではいけない。自我関与が中心の学習がよい。

立って話し合う、というのはどうか。子どもはメモしていた。座ってもよかったのかもしれない。今日の板書は、構造的でよかった。右と左で対比させて考えやすかった。

順接的な板書は縦書き、構造的な板書は横書きが分かりやすいか。これから研究してほしい。

話し合いの形態。ペア、グループ、全体。多様なのがよかった。

道徳は、自己の生き方について考えを深める学習だ。自由っていいんだな、自分を伸ばせるんだなと子どもが思うような道徳を展開したい。

子どもがどう変容したかを大切に道徳の授業をやってほしい。

第4学年1組道徳科授業

令和元年 2月 6日(木) 第5校時
在籍児童数 男子14名 女子14名 計28名
場所 4年1組 教室
指導者 教諭 北川 静香

- 1 主題名 仲よしでも 内容項目 [A-5 相互理解、寛容]
- 2 ねらい さくらと真由がお互いの考えを伝え合い、理解し合うまでの思いをなぞることで、自分の意見や考えを相手に伝えるとともに、自分と異なる考えや意見も理解しようとする実践意欲を高める。

教材名 「わかっているはずだから」(出展 日本文教堂出版)

3 授業の流れ(主発問及び児童の反応を明記する)

(1) 導入

① 価値への方向付け

発問1: 自分の気持ちを分かってくれる人は誰ですか。

・家族

発問2: 自分の気持ちを分かってくれた時どんな気持ちになりましたか。

・嬉しかった

(2) 展開

① 状況について確認

② 範読

発問1: さくらと真由はどんな性格ですか。

(さくら)・適当で良い。 ・面倒くさい。

(真由)・好きなことをしている。 ・いろいろ考えている

発問2: さくらと真由はどんな友達ですか。

発問3: さくらと真由はお互いにどんなことを「わかっているはず」と思い込んでいましたか。

主発問: それぞれのよくないところはどこですか。

発問4: 二人に足りなかった考えは何ですか。

(3) 終末

① 今までの自分自身を振り返る。

② 友達に関することについて、教師の説話を聞く。

4 板書



5 指導者より

指導者 越谷市立大沢小学校 校長 藤澤 由紀夫様

(1) 授業のよい点

先生と子どもの呼吸がぴったりで、意欲的だった。話し合い、発表が普段からできているのが分かった。

発言を拾って、他の子どもに広げていた。

「自由とは？」の答えの「不幸がない」を具体的にしていた。「誰にも注意されない。」には「それが自由なの？それはどういうこと。」「好き勝手できること。」には「それが自由なんだ。」という教師の問い返しはとても大事でよかった。

(2) 授業の課題

『自由とは、好き勝手にできること』と子どもは自然に思っている。そこをどう変えていくか。自由の意味を理解し、行動する態度を育てることだ。陽平も健二も自由だが、自分を高めるのはどちらなのか。

子どもに近い教材と、遠い教材がある。今日の教材は、子どもに近い。子どもは自分の自由学習ノートとだぶらせながら考えたであろう。学級指導とだぶらせがちである。だが健二と陽平の対比だから子どもは考えられた。

めんどくさいという、陽平の気持ちも人間としてはある。共感してもよい。

「学習ノートに、自分はこれからどのように取り組みますか。」に対して、学んだ価値をもとに書かせることが大事だ。「陽平はあることに気づいたよね。」と先生が言ったのはよかった。それをもう少し深掘りしてもよかった。

例えば、『陽平が自分のノートを見つめた。雑な字で書いてあった。新たなページに向き合った。』『その時にどう考えていたのかな。』と問う。

最終的に、「自由とは」と一般化すれば良かった。今日の授業では、自由の意味について考えるところまではいかなかった。そこが弱かった。自由と自分勝手との違い、自由だからこそできること、そのよさを考えさせる。

(3) 考え、議論する道徳

主体的な学習とは、問題意識を持ち、分かりたい、学びたいと思いだである。

道徳では、教材を通して、登場人物から価値について学ぶことができる授業だ。

教材をどう活かすかがポイントだ。道徳の特質は、教材を活かして、自分を見つめて、振り返ることだ。心情理解のみではいけない。自我関与が中心の学習がよい。

立って話し合う、というのはどうか。子どもはメモしていた。座ってもよかったのかもしれない。今日の板書は、構造的でよかった。右と左で対比させて考えやすかった。

順接的な板書は縦書き、構造的な板書は横書きが分かりやすいか。これから研究してほしい。

話し合いの形態。ペア、グループ、全体。多様なのがよかった。

道徳は、自己の生き方について考えを深める学習だ。自由っていいんだな、自分を伸ばせるんだなと子どもが思うような道徳を展開したい。

子どもがどう変容したかを大切に道徳の授業をやってほしい。

第2学年1組道徳科授業

令和2年 1月18日(火) 第5校時
在籍児童数 男子20名 女子14名 計34名
場所 2年1組 教室
指導者 教諭 角井 亜沙美

- 1 主題名 こうへいな たいど 内容項目 [C 公正、公平、社会正義]
- 2 ねらい あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度の問題について考えることを通して、誰に対しても分け隔てなく公平な態度で接しようとする態度を養う。
教材名 「ドッジボール」(出典：日本文教堂出版)

3 授業の流れ(主発問及び児童の反応を明記する)

(1) 導入

① 価値への方向付け

発問1：仲間外れをしてしまう心について考えてみましょう。

(2) 展開

① 状況について確認

② 範読

発問1：ドッジボールをすることになったとき、ゆかさんはどう思ったでしょう。

- ・ ななみさんと同じでいや。 ・ まけちゃう。
- ・ あいこさんといっしょでうれしい。

主発問：同じようにボールに当たったのに、あい子さんとななみさんへの声かけの仕方が違ったのはなぜでしょう。

(ゆか→あい子) ・ 1番の友達 ・ ドッジボールが上手だからはげましたい。
・ 親友

(ゆか→ななみ) ・ ドッジボールが上手じゃない。 ・ あまりなかよしじゃない。
・ すぐにあたってしまう。 ・ 思わずかっとなった。

発問2：まおさんの言葉を聞いた後、ゆかさんはななみさんに何と言ってあげますか。

- ・ さっきは強く言ってごめんね。 ・ またドッジボールしようね。

(3) 終末

発問1：仲間外れをしてしまわないためには、どうすればよいのでしょうか。

4 板書



5 指導者より

指導者 新座市立第四小学校教頭 浅田 敦子様

(1) 授業のよい点

- ・安心して見ていられる素敵な授業だった。
- ・子ども達も落ち着いて学んでいた。
- ・主人公のゆかさんだけではなく、役割演技を通してあい子さん、ななみさんと、他の登場人物に関しても個別に問いかけていたので、多面的・多角的な授業の展開ができたと思う。

(2) 授業の課題

- ・価値項目の「公平、公正、社会正義」は、「社会との関わり」で、「社会に繋がっていくんだよ」という視点で指導にあたるとよい。ねらいとする道徳的価値を支える根拠を考える。
- ・あい子、ゆか、まなみの3人の構成を考えながらしっかり捉えて授業をつくるのが大切である。
- ・教師の指導の明確な意図をもち、ねらいを設定すると授業がぶれない。

○内容項目の理解 : 教師の道徳的価値観

○子どもの実態把握 : 児童観

○教材の効果的な活用 : 教材観

→**ねらい** 【A】を通して【B】に気づき（について考え）、【C】を育てる。

A : 主な学習活動

B : 具体的な学び、考えさせたいこと、伝えたいこと→(新たな学び、気づき)

C : 道徳性の諸様相から育むもの、判断力、心情、実践意欲、態度

本時のねらいではBが欠けていたため、この3点を明確にすることが必要。

・『授業をつくる』

◎ねらい→○ねらいが達成された児童の姿→○中心発問→その他の発問→導入、終末→ねらいを達成するための手立て(意図のある手立てを)

「7つの工夫」→①教材提示 ②発問 ③話し合い ④書く活動 ⑤動作化、役割演技 ⑥板書
⑦説話

本時では、「人によって態度を変えない」を引き出すためにどの様な発問をするか。

- ・ゆかさんは、仲間はずれをしてはいない。→他の発問もさらに付け足したりすれば、より深まりのある授業になったと思う。
- ・負けたチームのまおさんは、相手を讃えている。そのことは相手を思いやることにつながる。まおさんがななみさんに声をかけたときの気持ちを考えさせてもよかった。
- ・終末のまとめは、自分との関わりで考えさせると良い。(自分の経験を絡ませながらでも良い。)

(3) 考え、議論する道徳

・『考え議論する道徳』とは？

→主体的に自分との関わりで考える。多様な考え方、感じ方を交流させる。

- ・ノートを書いた後の伝え合い、対話して深めるためにはどのように話し合っていくと良いかが課題。
- ・友だちの考えを利用していくといい。「深く考える」という積み上げになっていくと思う。

(4) 評価について

・「観点」ではなく「視点」で評価する。指導案の展開の中に具体的に入れるとよい。

○一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展している様子

○道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている様子

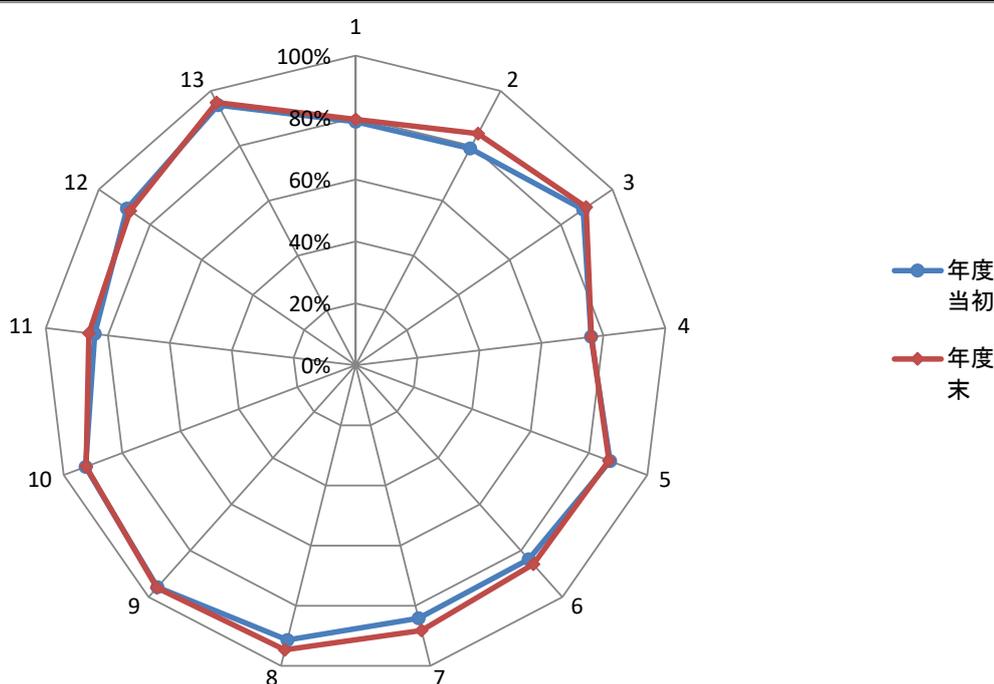
- ・『振り返りのキーワード』→「考えたこと」「なるほど」「なかなかできない」「今まで」「かわったこと」「これから」をも使うと「振り返り」を書いていけるのではないか。
- ・「道徳科の見方、考え方」→子どもの考えの共通点を見出す。ある一人の考えを広げる。表面上のことばの憶測に潜む心を明らかにする。
- ・『気づきのひも』 「く」比べる 「つ」つなげる 「ひ」ひろげる 「も」もやっとしている
これらは、深い学びにつなげるためのものであり、道徳でも活用していけるとよい。

アンケート質問項目一覧

1	どうとくのべんきようは、すぎだ。	どうとく 道徳の勉強は、すぎだ。	どうとく 道徳の勉強は、すぎだ。
2	どうとくのじゆぎようでは、じぶんのかんがえをつたえたり、ほかの人のかんがえをきいたりしながら、じぶんのことについてよくかんがえている。	道徳のじゆぎようでは、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。
3	がんばってやって、うれしかったことがある。	ものごとをさいごまでがんばってやって、うれしかったことがある。	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
4	じぶんには、よいところがあると思う。	自分には、よいところがあると思う。	自分には、よいところがあると思う。
5	けんこうやあんぜんにきをつけわがままをしないですえいかつをしている。	じぶん 自分では自分では、安全に気を付けて生活している。	あんぜん 安全に気を付け、規則正しい生活をしている。
6	がんばりたいことやもくひようをもっている。	がんばりたいことや目標をもっている。	しやうらい 将来の夢や目標をもっている。
7	あかるいあいさつややいねいなことばづかいをしている。	誰に対しても、気持ちの良いあいさつや言葉遣いをしている。	時と場をわきまえて、礼儀正しく接している。
8	ひと 人の気持ちがわかるにんげんになりたいと思う。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。
9	いじめはどんなゆゆうがあっても、いけないことだと思う。	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。
10	がっこうのきまりをまもっている。	学校のきまりを守っている。	学校のきまりを守っている。
11	ともだちやかぞくのやくに立ちたいと思う。	自分のすんでいる町やちいきのために何かしたいと思う。	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
12	じぶんのすんでいるまちはがすぎだ。	自分のすんでいる町が好きだ。	さいたまけん 埼玉県がすぎだ。
13	ひとやどうしよくぶついのちをたいせつにしている。	ひと 人や動植物の命を大切にしている。	ひと 人や動植物の命を大切にしている。

【全校】道徳意識調査総括票

学校名														
回答児童生徒数	年度当初												430	人
	年度末												432	人
肯定的意見 % (小数第1位まで)														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
年度当初	78.6%	79.1%	88.6%	76.0%	87.2%	83.7%	84.2%	91.4%	95.8%	92.6%	84.2%	89.1%	94.9%	
年度末	79.4%	84.5%	89.8%	76.2%	86.8%	85.9%	88.2%	94.7%	96.1%	92.4%	86.1%	87.7%	95.8%	



＜分析・考察＞

- ・全体としては大きくは変わらないが、道徳の特性からは自然な結果ではないか。能力の問題ではないから。
- ・アンケート自体は必要。自分の道徳性を振り返る時間になるし、授業の導入のきっかけになるから。
- ・低学年は、どの項目も向上している。学校全体として低いのは、1と4。
- ・1は、1, 2, 3年では向上し、4, 5, 6年では低下している。発達段階と関係あるかもしれない。
- ・ほとんどの学年で、2が伸びている。伝え合う活動や話し合う活動を多く取り入れた成果と考えられる。
- ・ほとんどの学年で、1は80%前後である。20%の児童がネガティブな回答をしていることをどう考えるべきか。
- ・高学年では4と11が依然として低い。今後の課題と考えられる。

＜改善＞

- ・伝え合い、話し合いの活動は継続していく。
- ・児童が意欲的に取り組み達成感を味わえる授業、自信を持つことの良さを感じられる授業を研究する。
- ・地域や社会に貢献することの価値を味わえる授業や行事を研究する。
- ・「個性の伸長」にあたる項目の文言は検討が必要か。自尊感情とは違うのではないか。
- ・11は、高学年用アンケートの文言を検討したい。低学年「ともだちやかぞくのやくに立ちたいと思う。」中学年「自分のすんでいる町やちいきのために何かしたいと思う。」高学年「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」→「地域や社会をよくするために何かしたいと思う。」としてはどうか。
- ・アンケート用紙は、1枚の用紙に年度初めと終わりを記入させ、変容が見えるようにする。

校内環境について【環境部】

1 道徳コーナーの設置（学年毎の場面絵と書物）



(1) 成果

場面絵を活用することができ、授業の中で内容を整理しやすくなった。道徳の本を購入し、紹介したことで教職員の知識を増やすことができた。

(2) 課題

読む時間を確保できない方がいたので、研究に関わる部分を抜粋して紹介していく必要がある。来年度は教科書が変わるため、場面絵の印刷を再度行う。

2 思いやりの木の作成

（研究主題の「主体的に道徳的実践意欲」を身に付けさせるため）



(1) 成果

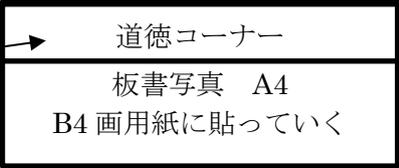
- ①道徳的実践意欲を身に付けさせる事を目的として「思いやりの木」を学年掲示板に掲示した。
- ②道徳的価値に関わる内容を日常生活の中で書き出し、児童が見られるように葉っぱを作成した。

(2) 課題

設置が遅くなってしまったことと児童に発信ができなかったことが課題である。

3 来年度以降の取り組み

- ①学級で掲示の仕方を考え、取り組む。（実践）
- ②学年掲示板の取組を促す。（葉っぱは学級管理）
- ③葉っぱが埋まった場合はそのまま残す。（貼れる場所検討）
- ④図書室の本を考えていく。（4月中）



（B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること に関係する書物を精選し、コーナーを設ける。）

※コーナー設置、購入費用に関しては確認済

授業研究部の取組について

1 主題からの視点の集約

- 視点1 登場人物の心情整理・自分ごととして考える中心発問の展開
- 視点2 考え・議論する道徳 話合いの充実（ペア・グループ・全体、思考ツール）
- 視点3 自分自身を振り返る、道徳的価値を深める。

2 提案指導案の明記事項の作成

- (1) 学力向上プランとの関連
- (2) 研究主題との関連

3 模擬授業形式で授業、指導案の検討

- (1) 授業者が導入から展開までの流れを教師を児童に見立てて授業をする。
- (2) 授業後、展開と中心発問について議論する。
- (3) 訂正、その場で再度授業。
- (4) 指導案訂正。

4 各人数での話合い活動スタイルと机の配置の提案

人数	ステップ1	ステップ2	ステップ3
2人組、隣同士	自分の考え・意見を伝える ・終わったら姿勢で示す ・終わったら座る	相づちをうつ ・共感や同調、同じところ違うところを探す	感想、質問をする ・意見交換で考えを深める ・疑問点を解決する
3人組 ↓ 班（4人） ↓ 号車	司会者をたてて、自分の考え・意見を伝える ・終わったら姿勢で示す ・終わったら座る	司会者が発表者、聴き手に話をふる ・聴き手に何か感想、質問はあるか尋ねる	司会者が発表者、聴き手に話をふる ・話しをまとめられる
全体 ↓ 立ち歩く（ペアを探し発表、話し合い）	自分の考えを伝える ・質問、付け足しをしながら全員発表 自分の考え・意見を伝える ・何人とやったか印をつけてもよい	議論する ・脱線したら教師修正 意見が同じ人、違う人とする ・共感や同調、同じところ違うところを探す	討論する ・自分達で話のルールに乗せる 感想、質問をする ・意見交換で考えを深める ・疑問点を解決する

5 1年間を通して、計画的に道徳の授業を保護者に公開

研究の成果と課題

【成果】

- ・伝え合い、話し合う場面を多くしたら、道徳の授業を楽しみにする児童が増えてきた。
- ・道徳的な価値を色々な場面で実践しようとする意欲が児童に出てきた。
- ・保護者からのメッセージやアンケート等を使って授業を行ったり、道徳の授業を公開したりすることで保護者にも「特別な教科 道徳」の理解を深めれることができた。
- ・全員が授業公開を行い、他の先生方の授業を参観する機会を設けたことによって、指導の在り方が再確認できた。
- ・多面的・多角的に児童の考えを引き出すための工夫や改善を意識して授業に取り組むようになった。

【課題】

- ・「特別な教科 道徳」の理解を深めるため、講師を招聘した講義時間を増やす必要がある。
- ・年度当初と年度末の比較ができるように、アンケート項目の検討が必要である。
- ・年間指導計画の見直しを図るとともに、新しい教科書に沿った場面絵などの資料を作成する。
- ・評価方法の検討を図るとともに評価の観点を明確にする。

御指導いただいた先生方

文教大学講師
越谷市立大沢小学校長
新座市立第四小学校教頭

五十嵐 由和
藤澤 由紀夫
浅田 敦子

研究に携わった教職

校長	若林 利明	教頭	布施喜美恵	教務	○飯塚恵理子	○鳶野 明子
	中村 亮太		横塚 幸葉		○角井亜沙美	田邊 亮太
	○門脇 佑典		鈴木 暁子		○北川 静香	佐藤 静香
	熊倉 徹		◎工藤 俊輔		丸山 直己	○小島 桂子
	○松村 優		澁谷 初枝		花房 伸恵	井口 裕美
	佐佐木佳奈子		清水 直子		勝野菜奈子	蜂谷 啓子
	大坂 慶三		長沼 文彦		本間 直子	渡邊 伸子
	原田 来亜		木村 吉克		二瓶 美晴	矢吹 雪江
	川南久美子		原 伊佐子		林 慎一	清水理恵子

終わりに…

道徳教育は、児童の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割を担っています。そのため、授業においては、自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を培うことが不可欠となります。本校では「特別な教科道徳」の授業の開始にあたり、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」・自分の考えを友だちと伝え合い深め合う「議論する道徳」の研究を進めて参りました。

今年度は、1年目ということで、文教大学講師 五十嵐由和先生に「特別な教科道徳」についてのご講義を受けるとともに、各学年が研究主題である「豊かな心で 主体的に道徳的な価値を身につける児童の育成 ～考える道徳、議論する道徳の授業をとおして～」を目指し、授業研究会を通して、研究の成果をまとめることにいたしました。今後は、さらに、他教科・領域との関連を図りながら道徳的な価値の理解を深めるため、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習の推進に努めていきたいと思っております。

最後になりましたが、今年度からの本校の研究に対し、丁寧にご指導いただきました文教大学講師 五十嵐由和様、越谷市立大沢小学校長 藤澤由紀夫様、新座市立第四小学校教頭 浅田敦子様へ深く感謝いたします。